

創立記念講話（全校朝会にて）

あす11月5日は創立記念日で、土曜日でもあります、学校はお休みです。

江戸川学園取手小学校は、2014年（平成26年）4月に開校しましたので、2年半が過ぎたところです。学校は、ますます大きくなり躍進を続けています。みなさんは桜の花満開の中、入学したときのことを覚えていますか。1年生にとっては半年前のことです。

江戸川学園という名前の由来は、学校の始まりが江戸川（利根川より分流）という川の近くにあった城東高等家政女学校（後に江戸川高等家政女学校などと改称、現江戸川女子中・高等学校／東京都江戸川区東小岩）だったからです。1932年（昭和6年）11月に校舎を設置したので、11月5日を学園の創立記念日としました。したがって、創立記念日は、本校だけでなく取手中・高等学校や大学なども同じ日です。

一貫教育校の取手高等学校は、1978年（昭和53年）4月1日開校となり、4月6日に高等学校1期生998人を迎えて、第1回入学式をしたのだそうです。

そして、9年後の1987年（昭和62年）に、中学校が開校しました。これで、中高6ヵ年一貫教育校となったのです。このあたりから進学実績がぐんと伸びたのだそうです。

それから27年後、小学校ができたのです。茨城県初の「小中高12ヵ年一貫教育校」となったのです。

高等学校の校舎を造る前は、今の中・高等学校がある場所は、ただの原っぱでした。校歌の1番の通り、利根川がゆっくり流れ、遠くに富士山が見えました。この場所で「世界を築く礎」となる人を育てるのだと決意したのだそうです。

その時から39年の年月が過ぎました。開校以来「心豊かなリーダーの育成」を目指して、日本の中、世界の中で、いや地球の中でリーダーとして活躍できる人を育ててきました。リーダーというのは、先頭に立ってみんなを引っ張るだけではありません。ときには他のリーダーやみんなの後押しをする人のことをいいます。そして、一番大事なのはリーダーは自分の中にいて、そのリーダーに声をかけ、進んで行動することです。

校歌には、「世界を築く礎のおのれの道を究めつつ」という言葉が入っています。自分の夢や目標に向かって、努力を重ねていくということです。3番の歌詞には「まむかう風に歩みゆけ」とあります。後押ししてくれる風ばかりではありません。正面から吹いてくる風には、強い気持ちで立ち向かわなければなりません。歌い重ねるたびに、校歌の意味がよくわかってくると思います。

夢やあこがれを実現するために、毎日の生活に一生懸命取り組み、努力を重ね、自分の力で未来を切り拓くことを願っています。

あすは校歌の意味を考えながら、「心豊かなリーダー」として活躍する姿を思い描き、今自分のすべきことを心に決めて、実行してみましよう。

平成28年11月4日（金）

江戸川学園取手小学校長 若林 富男